

## レチタティーヴォとアリア「幸せの影よ／私はお前を残していく」K.255 ——ザルツブルクに滞在したイタリア一座との交流——

野口秀夫

### 1. はじめに

犬輔：レチタティーヴォとアリア「幸せの影よ／私はお前を残していく」K.255はモーツアルト唯一のアルトのためのコンサート・アリアだと言われているけど、誰のために、どのような目的で作曲されたのだろうか。

鳥代：歌詞から判断するとオペラ・セーリアからのアリアのようね。どの台本から採ったのか、先行する作曲家は誰だったのかにも興味があるわ。

教授：幸い自筆譜と手紙があるから、その記述を調べることから始めてはどうかね。

### 2. 自筆譜及び手紙

鳥代：自筆譜はコープブルク城コレクションにV.1109.2として保存されており、ネットで閲覧が可能です<sup>注1</sup>。楽譜の上には図1のとおりレオポルト・モーツアルトの筆跡で「レチタティーヴォとロンドー風のアリア」「騎士アマデオ・ヴォルフガング・モーツアルト氏による／ザルツブルクにて1776.9。フォルティーニ氏のために」と書かれています<sup>注2</sup>。

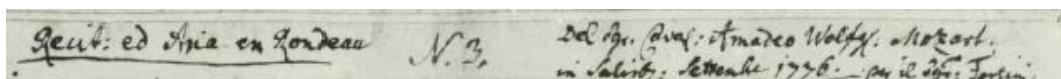


図1 レチタティーヴォとアリア「幸せの影よ／私はお前を残していく」K.255 自筆譜から

犬輔：1776.9 ザルツブルクで作曲ということは分かりました。フォルティーニ氏とはこの歌を歌った歌手のことですね。アルト用の歌ということですから、男声歌手であればカストラートなのでしょうか。

教授：よく気が付いたね。その通りだ。次の手紙でそのことがはつきりするだろう。ヴィーンに定住したモーツアルトがザルツブルクの父宛ての手紙(1783.4.12)でこの曲について次のように書いている。「今度なにか送るつてがありましたら、(ザルツブルクでイタリア一座のカストラートのためにぼくが作曲した) アルトのためのロンドー【中略】も一緒に送ってください」。

鳥代：7年経ってもモーツアルトは覚えていて、レパートリーに加えようとしていたのですね。

犬輔：イタリアの一座とは旅回りの劇団だと思われますが、どのような団体だったのでしょうか。

教授：それにはザルツブルクの宮廷顧問官ヨアヒム・フェルディナント・フォン・シーデンホーフェンの日誌<sup>注3</sup>が役に立つだろう。

### 3. シーデンホーフェンの日誌

犬輔：1776.8.25 の欄にこう書いてあります。「ちょうど今日は、ローザ氏の一座による最初のフランス・コメディ《奇妙な女 La Donna Bizzarra》が公演された」。これはオペラではなさそうですね。

鳥代：因みに一座の最後の公演がいつなのかは分かるかしら。

犬輔：1776.10.6 に「劇場では、今日オペラ最後のスペクタクル《偽の愛に夢中 il finto Pazzo per amore》が上演される」とあります。蛇足ですが、午後には多くの人と会い、20:30頃食事をとり、21:30から翌日4:30まで、シーデンホーフェン自身の他にナンネルも（おそらく市庁舎での）仮装舞踏会に参加しています。したがって本人は実際にはオペラには行っていないようです。つまり行っているくても上演記録として書かれているということです。

教授：大司教コロレードは古い舞踏会場を改築し 1775.11.16 に宮廷劇場 Fürsterzbischöfliche Hoftheater を公開した。演劇で柿落したが、1776には音楽もやるようになったという。実際ベームやシカネーダーの一座がこの劇場を使っている<sup>注4</sup>ことから、ローザ座の公演もここで行われたと考えられる。

鳥代：シーデンホーフェンはローザ座のメンバーネームを挙げているのでしょうか。

犬輔：1776.9.29 に「バルミーニはコメディの下でヴァイオリン協奏曲を演奏した」とあり、1776.9.30 には「大聖堂のオフィスに行き、そこでカストラートのフォルティーニを聞いた」とあります。

鳥代：カストラートのフォルティーニが出てきましたね。大聖堂で宗教曲をザルツブルクの歌手に交じって客演したということでしょうね。

教授：モーツアルトがアルトのためのロンドーを作曲したのが、オペラへの挿入アリアあるいは代替アリアだとすれば、その演目が何であるかを調べる必要がある。

犬輔：承知しました。シーデンホーフェンの挙げているオペラの演目を整理してみましょう。なお、オペラと演劇の上演はほぼ半々で、演劇のタイトルもすべてイタリア語でした。

表1 ザルツブルクにおけるローザ座のオペラ上演演目

作曲者	ジャンル	演目	上演月日
ニッコロ・ピッчинニ	ドランマ・ジョコーザ	《幸運な賭博師》 il Giocatore fortunato	8.27, 8.29, 9.3, 9.10, 9.22, 9.24, 9.27, 10.4
アンジェロ・デ・アンジェリス	ドランマ・ジョコーザ	《二人のフランス人旅行者》 I due Viaggiatori francesi	8.30
アントニオ・サッキーニ	インテルメツツオ	《偽の愛に夢中》 il finto pazzo per amore	9.13, 9.19, 10.1, 10.2, 10.6
ルイージ・ボロニーヤ	ドランマ・ジョコーザ	《忠実な農婦》 La Contadina fedele	10.3

鳥代：《幸運な賭博師 il Giocatore fortunato》と《偽の愛に夢中 il finto Pazzo per amore》が人気を得た演目だったのですね。

犬輔：この中にモーツアルトが追加作曲をしたオペラがあるのか、リブレットの調査が必須です。

教授：それでは corago サイトで検索してみたまえ。

#### 4. リブレットの調査

鳥代：あら、不思議ですね。上演場所を Salisburgo として検索しても 1776 には一件のリブレットもヒットしません。

教授：ザルツブルクで上演されたオペラのリブレットは殆ど残っていない。これは一般的にはナポレオン戦争で多くの資料が散逸したという話があるも、そもそも当該リブレットは印刷されていなかったのではないかと私は考えている。

犬輔：それではローザ座の他の都市での上演記録を辿ってみてはどうでしょう。フォルティーニとパルミーニが出演した作品を検索してみましょう…。表2の4件がヒットしました。そのうち2件がザルツブルクでの演目と同じです。

表2 フォルティーニとパルミーニが一緒に出演したオペラ (corago による)

作曲者	ジャンル	演目	時期	上演場所
ニッコロ・ヨンメリ	ドランマ・ジョコーザ	《巧妙な愛、あるいは聰明な若い女性》 Amore ingegnoso, o sia La giovane scaltra	1775 謝肉祭	パドヴァ
アンジェロ・デ・アンジェリス	(オペラ・リリカ)	《うかつものの博打うち》 L' astratto per il lotto	1775 春	パドヴァ
ルイージ・ボロニーヤ	ドランマ・ジョコーザ	《忠実な農婦》 La contadina fedele	1775 春	パドヴァ
アンジェロ・デ・アンジェリス	ドランマ・ジョコーザ	《二人のフランス人旅行者》 I due Viaggiatori francesi	1776 秋	インスブルック

鳥代：《巧妙な愛、あるいは聰明な若い女性》のリブレットの献呈辞の署名には「ピエトロ・ローザ、カーポ・コミニコ」と書かれています<sup>注5</sup>。

*Umiliſi., Devotifſ., Obbligatifſ. ſerv.  
Pietro Rosa Capo-Comico.*

図2 ヨンメリ《巧妙な愛、あるいは聰明な若い女性》ピエトロ・ローザの献呈辞署名

犬輔：カーポ・コミニコとは何のことですか。

教授：カーポはダ・カーポ（頭に戻る）にあるように「頭」のことだから、「喜劇頭（がしら）」つまり「喜劇座長」のことだ。

鳥代：リブレットに書かれている座員の名前を挙げておきましょう。エレーナ・ローザがソプラノ（プリマ・ブッファ）で、おそらく座長の娘と思われますが、2作目からエレーナ・パルミーニと名前が変わります。アンジェラ・ローザがおそらく妻でコントラルト、フランチエスコ・フォルティーニはアルト・カストラート（プリモ・ウォーモ）、アントニオ・パルミーニはテノール・ブッフォ、アンドレア・キアッピーニはおそらくテノール・アモローゾ、そしてカルロ・セラモンディはバッソ・ブッフォと思われます<sup>注6</sup>。

犬輔：上演場所としてローザ座はパドヴァとインスブルックの間にザルツブルク興行を挟んでいたということになるんですね。

教授：ルードルフ・アンガーミュラーはシーデンホーフェンの日誌への注釈で次のように述べている。「ピエトロ・ローザは、1775にパドヴァとリュブリヤナ、1776/77にクラーゲンフルト、1778にゴリツィア、1780にウーディネで自身の劇団を展開した。パドヴァの台本では彼はカーポ・コミニコと呼ばれ、リュブリヤナではパンタローネとして登場した。ザル

ツブルクの聴衆はおそらく彼の公演があまり好きではなかったと思われ、治安判事は娯楽税を1公演当たり2グルденから30クロイツァーに減額した」<sup>注7</sup>。

犬輔：ザルツブルクの他にリュブリヤナやクラーゲンフルトに行ってますが、やはりそこでのリブレットがcoragoサイトに載っていないのは、coragoでのリブレット調査だけでは不十分だということですね。

鳥代：でも少ない情報からなんとか答えを導き出しましょう。インスブルックのリブレットの巻頭言でピエトロ・ローザ座長は次のように述べていますよ。「先のやりがいのあるドランマ・ジョコーゾ《幸運な賭博師 Giocatore fortunato》にて、輝かしい場面に世間の共感を得ましたことは、《二人のフランス人旅行者 I due viaggiatori francesi》というタイトルの第二弾を提示する勇気を与えてくださいました」<sup>注8</sup>。

犬輔：ほう、ザルツブルクでは《幸運な賭博師 Giocatore fortunato》が少なくも8回上演されていて、座長も共感を得たと出来栄えに満足していることから<sup>注9</sup>、モーツアルトがこのオペラに挿入曲を書くチャンスはあったかも知れません。

教授：鋭い指摘だ。まさにその挿入曲がアリア「クラリーチェは私のいとしの妻になるはず」K.256だ。テノールの曲ゆえ、アントニオ・パルミーニのために書かれたと言われている<sup>注10</sup>。

鳥代：今回はK.255の調査だから別のアプローチが必要ね。上演の多さというキーワードはそのままにして、演目ではなく、上演場所で見てはどうかしら。つまり、表2で多くを占めているパドヴァのオペラ上演事情を調査するのよ。

犬輔：それに何の意味があるのかなあ…。

## 5. リブレットの上演場所調査

鳥代：1775年のパドヴァでのオペラ上演を表3にまとめました（表2の一部も再掲となります）。

表3 1775年のパドヴァでのオペラ上演演目（coragoによる）

作曲者	ジャンル	演目	時期	場所
ニッコロ・ヨンメリ	ドランマ・ジョコーゾ	《巧妙な愛、あるいは聰明な若い女性》 Amore ingegnoso, o sia La giovane scaltra	1775 謝肉祭	パドヴァ オビツツィ劇場
リナルド・ディ・カブア	インテルメツツオ	《騎士ヒル氏》 Il cavalier Mignatta	1775 謝肉祭	パドヴァ オビツツィ劇場
ヴィチェンツオ・チアンビ	ドランマ・ペル・ムジカ	《愛の風刺画》 L'amore in caricatura	1775 謝肉祭	パドヴァ 新劇場
アレッサンドロ・グリエルミ	ドランマ・ジョコーゾ	《失意の老人あるいは美しいアウローラ》 Il vecchio deluso, o sia La bella Aurora	1775 謝肉祭	パドヴァ 新劇場
アンジェロ・デ・アンジェリス	(オペラ・リリカ)	《うかつものの博打うち》 L'astratto per il lotto	1775 春	パドヴァ 新劇場
ルイージ・ボロニーヤ	ドランマ・ジョコーゾ	《忠実な農婦》 La contadina fedele	1775 春	パドヴァ 新劇場
ミケーレ・モルテッラーリ	ドランマ・ペル・ムジカ	《アルサーチェ》 Arsace	1775 見本市	パドヴァ 新劇場
ジュゼッペ・ガツツアニーガ	ドランマ・ジョコーゾ	《アルチーナ島》 L'isola di Alcina	1775 見本市	パドヴァ 新劇場

犬輔：1年に8つもの演目が上演されているなんて驚きです。この多さには何か理由があるのでしようか。

教授：パドヴァでは12演目のリブレットが残っている年もあり、多くのリブレットが印刷された都市であると言ってもいいだろう。したがって1775が特に多いという訳ではないが、この年の見本市は特別であった。年代記には次の通り記されている。「パドヴァ見本市はその独創的な取り組みと革新において常に際立ってきた。16世紀には、サンタントニオ大聖堂の広場で博覧会が開催され。[…] 2世紀後、56の取り外し可能な木造店舗を統合したオリジナルの記念碑的建造物を建設した。[…] 1775.10.6、新しいフィエラ・デル・サント Fiera del Santo [聖人の市] が発足した。ヴェネツィア上院の法令により、この市は関税が支払われない免税見本市となり、最も「高級な」商品が店頭に並べられた」<sup>注11</sup>。パドヴァはヴェネツィア共和国の経済的に発展した都市であったのだ。

鳥代：《愛の風刺画》と《アルサーチェ》がドランマ・ペル・ムジカすなわちオペラ・セーリアですね。それぞれ謝肉祭と見本市の第1オペラだったと考えられます。

教授：諸君たちは知らず知らずのうちに核心に近づいてきた。レチタティーヴォとアリア「幸せの影よ／私はお前を残していく」K.255はオペラ・セーリアからの歌詞のようだと鳥代さんは言っていたね。ここまで来てミケーレ・モルテッラーリ Michele Mortellari (c.1750-1807) 『アルサーチェ Arsace』のリブレットを調べないで通り過ぎることはできないだろう。

## 6. ミケーレ・モルテッラーリ《アルサー・チエ》(1775) のリブレットから

犬輔：驚きました。K.255と同じ歌詞がありました<sup>注12</sup>。リブレットに台本作者名はありませんが、ジョヴァンニ・デ・ガメッラ Giovanni De Gambera (1743–1803) の『エピロ王メドンテ』が原作と思われます。ストーリーは、メドンテ王がセレーネとの結婚の準備をしていますが、彼女が自分を愛する将軍アルサー・チエに感情を抱いていることに気づくというものです。メドンテは、最初はアルサー・チエを支持して放棄を宣言しましたが、その後セレーネを逮捕し、処刑のために寺院に連行しました。アルサー・チエはセレーネを救うために駆け付けますが、やはり逮捕されてしまいます。そして永遠の別れの瞬間がやって来ます。

表4 モルテッラーリ《アルサー・チエ》(1776) 第二幕 第8場

ATTO II. SCENA VIII. <i>Evandro, Arsace, e Selene.</i>	第二幕 第8場 エヴァンドロ、アルサー・チエ、セレーネ。
Evan.	エヴァンドロ
Di Vassallo al dover, Signor perdona Quest' ufficio crudel...	家臣の義務に従う者として、閣下 この残酷な職務をお許しください…
Ars.	アルサー・チエ
T' intendo, amico. Prendi. Teco io sarò. (gli porge la spada.)	分かった、友よ。 取ってくれ。君の言う通りにしよう。 (彼に剣を渡す)
Sel.	セレーネ
Dunque è deciso? (alzandosi con affanno.)	では、決まってしまったの？ (不安そうに起き上がる)
Dunque corri a morir?	あなたは死を急ごうというの？
Ars.	アルサー・チエ
Sì, mio tesoro.	そうだ、最愛の人。
Non v' è più speme. Io vado.	もう希望はない。私は行く。
Sel.	セレーネ
Arsace... Io moro!... (sviene)	アルサー・チエ… 私は死んでしまうわ！… (気を失う)
Ars.	アルサー・チエ
Cara... Oddio! ... Deh, resisti... Ceder conviene al Fato... Ombra felice.	いとしい人…ああ神様！…ああ、待ってくれ… 運命に従おう… 幸せの影よ。
Tornerò a rivederti... Apri i bei lumi... E consola, deh, almeno in questo istante Con un pietoso sguardo il fido amante...	また会おう… 美しい瞳を開いてくれ… そして、ああ、少なくともこの瞬間だけは、 お前の忠実な恋人を哀れむ表情で慰めてくれ…
Porgimi la tua destra... Un pegno estremo Del tuo affetto mi dona...	右手を差し出して… お前の愛情の 最後の証を私に与えてくれ…
Ah! Che la mia costanza or m' abbandona.	ああ！ 私の意志の強さが今では私を見捨てるのだ。
Io ti lascio; e questo addio Se sia l'ultimo non so... Ah, chi sà, bell'idol mio, Se mai più ti rivedrò.	私はお前を残して行く、これで別れだ これが最後になるかはわからぬ… ああ、誰が知っているだろう、いとしい人、 またお前に会えるのか。
Vengo.. oh ciel! ... Deh, lascia.. Oh pena! Per te sol, mio ben, pavento... (Un più barbaro tormento Giusti Dei, chi mai provò!) (parte fra Ministri, e soldati.)	私は行く…天よ…あの人は残る…ああ、この辛さ！ お前だけが心配だ、いとしい人よ… (これ以上の野蛮な苦痛を、 正義の神々よ、だれが味わったというのだ！) (彼は大臣と兵士の間を抜けていく)

鳥代：モーツアルトのレチタティーヴォ・アコンパニヤートは「幸せの影よ Ombra felice」の部分からですが、科白の途中です。モルテッラーリはどのように作曲しているのかしら。

教授：同じくそこからがレチタティーヴォ・アコンパニヤートだ<sup>注13</sup>。

犬輔：アリアの歌詞における厳密な異同を表5に示しますが、楽譜同士が全く同じ歌詞と言つていいと思われます。

表5 歌詞の異同

リブレットのアリア第2節	モルテッラーリ筆写譜	モーツアルト自筆譜
Oh pena!	Oh pena! と che pena! が混在	Oh pena!
Un più barbaro tormento	il più barbaro tormento	il più barbaro tormento
最後の2行を括弧が囲む	括弧はない	括弧はない

鳥代：モーツアルトはモルテッラーリの《アルサー・チエ》の楽譜から歌詞を採ったと考えられるのですね。

教授：だが、AINシュタインの説は異なっている。「モーツアルトはそのテキストと曲の構造を、敬愛するヨハン・クリスティアーン・バッハから取っている。バッハはソプラノ、オブリガート・オーボエおよびオブリガート・ピアノのために、無上の旋律的光沢と巧緻な仕上げを持つ一つのコンチェルト歌曲を1774に書いている」<sup>注14</sup>。確認したまえ。

## 7. J.C.バッハのカンタータ《リナルドとアルミーダ》のリブレットとの関係

犬輔：確かにJ.C.バッハはカンタータ《リナルドとアルミーダ》WG20を作曲するに当たって、モルテッラーリのアリアを手本にしています。《アルサーチェ》(パドヴァ 1775)でタイトルロールを歌ったジュスト・フェルナンド・テンドウッチ Giusto Fernando Tenducci (c.1730–90)が、このカンタータを歌ったことが関係しているらしいのですが、カンタータは1774ではなく、1778の作品なので時系列が逆です。なお、このカンタータはレチタティーヴォとアリア「さあ、行こう／私はお前を残していく」WLG2のみが残っており、残りの部分は散逸してしまったということです<sup>注15</sup>。参考までに歌詞を表6に載せておきます<sup>注16</sup>。

表6 J.C.バッハの「さあ、行こう／私はお前を残していく」WLG2

RECITATIVO	レチタティーヴォ
Ebben, si vada, trionfi la ragione itene a terra, vergognosi trofei vili spoglie d'amor!  Impallidisca, tremi l'Asia al mio brando e si cangino alfin per mio decoro le rose e mirti in glorioso alloro!  Ma reo sarà Rinaldo di sì enorme viltà? Lasciarla, oh Dio, lasciarla in questo stato a ch'io mi perdo! Volgimi, o cara, almeno, pria ch'io parta da te, pria che m'uccida, il barbaro dolore, un sguardo di pietà, se non d'amore!	さあ、行こう、理性を勝利させてくれ、 それを地面に置こう、恥ずべきトロフィー、 卑劣な愛の戦利品！ アジアが青ざめ、私の腕の前で震えるように、 そしてバラとギンバイカが私の装飾として 輝かしい月桂樹に変わりますように！ でも、リナルドはそのような卑劣な罪を犯すだろうか？ 彼女から離れる、ああ神様、 私が自分を見失った状態で彼女から離れるのだ！ ああ、いといし人、 少なくとも私がお前から離れる前に、 野蛮な痛みで私が死ぬ前に、 愛ではなくても哀れみの表情を 私に向けてくれ！ アリア
ARIA	私はお前を残して行く、これで別れだ、etc.
Io ti lascio, e questo addio, ecc.	

鳥代：ハイドンの《アルミーダ》にも同様のレチタティーヴォがありリナルドが歌うので、J.C.バッハの場合もカストラート・ソプラノが歌うリナルドの歌詞ということになります。

犬輔：アリアの歌詞はモルテッラーリ、モーツアルトとほとんど同じですので省略しました。

教授：J.C.バッハが手本となったという説は否定されたが、さらにはモルテッラーリに《見棄てられたディドーネ》(フィレンツェ 1772)があり、《アルサーチェ》(パドヴァ 1775)に先んじてこの歌詞が使われていたという説がある<sup>注17</sup>。それについてはどうだ。

## 8. モルテッラーリ《見棄てられたディドーネ》(1772あるいは1775) のリブレットとの関係

鳥代：1772にフィレンツェで上演されたときのリブレット<sup>注18</sup>にこの歌詞はありません。

犬輔：一方、1775.11.7にロンドンのキングズ・シアターで上演されたパステイッショ《見棄てられたディドーネ》<sup>注19</sup>はサッキーニの選定によりフェリーチェ・ジャルディーニ、ミケーレ・モルテッラーリ、アントニオ・サッキーニの曲で構成されていて、表7のレチタティーヴォとアリアがモルテッラーリの曲だと言われています<sup>注20</sup>。《アルサーチェ》のアリアと歌詞が異なる部分を赤字にしました(レチタティーヴォは丸ごと異なるので赤字にはしていません)。また、役は男性ではなく、女性なので、それらしく翻訳を変えました。

表7 モルテッラーリ「その恩知らずは私から離れたでしょうか？／あなたたちを残して行きます」

Didone	ディドーネ
E mi lasciò l'ingrato?	その恩知らずは私から離れたでしょうか？
Ebbe cor di tradirmi!	彼はあえて私を裏切ったのです！
O sorte mia tiranna!	おお、運命の暴君よ！
Ah consola tu almeno in quest'istante, Soccorri per pietà quest'alma amante.	ああ、少なくともこの瞬間だけは自分を慰め、 この愛する魂を哀れみから助けてください。
E tu cara Germana un pegno estremo Del tuo affetto mi dona.	そして、親愛なる妹よ、あなたの愛情の 最高のしるしを私に与えてください。
Ah che la mia costanza or m'abbandona. Io <b>vi</b> lascio, e questo addio	ああ、私の意志の強さは今私を見捨てています。 あなたたちを残して行きます、これでお別れです
Se sia l'ultimo non so: Ah, chi sà, <b>se</b> l'idol mio <b>Io</b> mai più lo rivedrò.	これが最後になるかはわかりません： ああ、彼が私の恋人かどうか誰にも分からぬ もう二度と彼に会うことはないでしょう。
Vado, oh ciel, <b>che affanno!</b> oh pene! Per te sol mio ben pavento, Il più barbaro tormento Giusti Dei chi mai provò!	私は行きます、天よ、なんという不安！ この辛さ！ あなただけが心配です、いといし人よ、 これ以上の野蛮な苦痛を、 正義の神々よ、だれが味わったというのですか！
(Parte con Selene.)	([妹の] セレーネと退場)

鳥代：場面はトロヤの英雄エネア（アイネイアス）と恋に落ちたカルタゴの女王ディドーネが、新たな国を建設すべくイタリアへ旅立つ英雄に棄てられて歌います。物語はディドーネに求愛し続けるムーア人の王ヤルバの奸計、ディドーネの妹セレーネのエネアへの秘められた恋、また、腹心の部下たちの裏切りなどが渦巻きます。

教授：推測すれば《アルサー・チエ》がパドヴァの見本市で1775.10に初演されるに先立つある日、モルテッラーリのところにキングズ・シアターから1775.11.7に上演することになるサッキーニ編纂のパステイッチョ《見棄てられたディドーネ》の知らせが届いた。サッキーニ側はモルテッラーリが1772に《見棄てられたディドーネ》を作曲していたことを知っていて、そこからの曲を念頭に依頼したのだろう。だが、モルテッラーリは手元のアリア「私はお前を残して行く」（表4）が気に入っていたのだろうね。それを「あなたたちを残して行きます」（表7）に歌詞を手直しして、新しいレチタティーヴォを付けて送り届けたのではないか。こういうストーリーが考えられるということだね。

犬輔：そうです。アリアは曲をそのまま流用しましたが、レチタティーヴォは同じ曲に新しい歌詞を乗せて、伴奏を少し変えているようです<sup>注21</sup>。

教授：因みにパステイッチョ《見棄てられたディドーネ》でディドーネを歌ったのはカテリーナ・ガブリエーリ、エネアを歌ったのがヴェナンツィオ・ラウツィーニ（エクスルターテ・ユビラーテを歌った）、セレーネがフランチェスカ・ガブリエーリであった<sup>注22</sup>

鳥代：歌詞の違いから、モーツアルトがK.255の手本にしたのは《見棄てられたディドーネ》ではなく、《アルサー・チエ》の方だというのは決まりですね。

教授：蛇足だが、フェルディナンド・ベルトーニFerdinando Bertoni(1725–1813)の《アルタセルセ》(フォルリ1776)にはモルテッラーリの「私はあなたを残し、別れを告げます Io ti lascio e parto addio」の歌詞および曲がそのまま流用されている（レチタティーヴォは不詳）<sup>注23</sup>。

犬輔：さらに言うなら、ヨーゼフ・シュスターJoseph Schuster(1748–1812)の《見棄てられたディドーネ》(ナポリ1776)第3幕第5場では男性のエネアが歌うアリアとして表4と表7の歌詞が入り混じったものとなっています<sup>注24</sup>。ただし、レチタティーヴォの歌詞・曲とアリアの曲は全く新しいものです<sup>注25</sup>。

鳥代：モルテッラーリのアリアはクラヴィーア伴奏版のロンドーRondeau「私はお前を残して行く、これで別れだ」<sup>注26</sup>や、ルイージ・パルメリーニLuigi Stefano Palmerini(1768–1842)の「あなたたちを残して行きます、お別れです」による変奏曲<sup>注27</sup>にもなり、広く愛唱されていたことが伺えます。

## 9. モーツアルトの「幸せの影よ／私はお前を残していく」K.255は何のために作曲されたのか

教授：新モーツアルト全集序文にはこうある。「モーツアルトがこのシーンを作曲した（因みに彼の唯一のアルト声部用コンサート・アリア）相手のアルトのフランチェスコ・フォルティニは、当時イタリアの劇団ピエトロ・ローザに所属していた。ローザの一座は当時ザルツブルクでブッフォ・オペラを上演していた。しかし、私たちのシーンのテキストはオペラ・セーリアから来ており、18世紀のセーリアの標準的な要素であるオンブラのシーンのバリエーションである。オンブラの場面では、亡くなった恋人の影（オンブラ）に別れを告げる。レチタティーヴォとアリアのテキストは、1775年にパドヴァで上演されたドランマ・ペル・ムジカ《アルサー・チエ》(II, 8)の台本からのものである」<sup>注28</sup>。

犬輔：K.255は代替アリアでも挿入アリアでもなく、コンサート・アリアだというのですね。

鳥代：でもそのような内容のコンサート・アリアが新作で歌われるシチュエーションは考えにくいでしょ。ローザ座のフェアウエル・コンサートがあったのならそのために書かれた可能性もありますが、そのような催しはシーデンホーフエンの日誌に記述がありません。

教授：では強引でもいいから代替アリアあるいは挿入アリアになりうる演目を挙げてみたまえ。

犬輔：(おずおず) そういえばローザ座の評判がよかった演目で検討していないのはサッキーニ《偽の愛に夢中 il finto pazzo per amore》だけです。でも、これにK.255が使われたとはとても信じられませんが。

教授：それまで言うならヒントを上げよう。ミラノ・ブレラ国立図書館の「1900年までの音楽原稿の全国カタログ」の中に、図3のカードがある<sup>注29</sup>。

Mortellari, Michele	Il finto pazzo per amore. Io vi lascio e quest'addio	RECITATIVO, ARIA	S, orch
---------------------	--	------------------	---------

図3 モルテッラーリ《偽の愛に夢中》からレチタティーヴォとアリア「あなたたちを残して行きます」

犬輔：えっ、モルテッラーリにも《偽の愛に夢中》があり、そこにレチタティーヴォとアリア「あなたたちを残して行きます」が使われているというのですか。大発見ですよ！

鳥代：早速モルテッラーリ《偽の愛に夢中》(1779 ヴェネツィア)のリブレットを調べましょう。ネットで閲覧可能です<sup>注30</sup>。

犬輔：調べたけど、アリア「あなたたちを残して行きます」は見つからなかったよ（しょほん）。

教授：再演の時に改訂されたのかも知れないし、初演での改訂が間に合わなかつたこともありうるから、残されているリブレットで挿入が可能な箇所を探してみてはどうか。

犬輔：分かりました（元気が戻って）。第一幕 第11場が怪しいです。第11場が二つあるので初演の直前に代案の差し替えをためらった痕跡である可能性があります。そのため、最終案のアリア「あなたたちを残して行きます」を印刷しそこなつたのかも知れません。

鳥代：犬輔さん、ちょっと冷静になって。モーツアルトが作曲した代替曲の対象はモルテッラーリの『偽の愛に夢中』ではなく、サッキーニの『偽の愛に夢中』ですよ。リブレットはプレスブルク版（1769）<sup>注31</sup>が残っていて、その後レーゲンスブルク版（1775）<sup>注32</sup>に至るまで——表記はインテルメツォともドランマ・ジョコーザともされるけれど——改訂されていないので、ザルツブルクでも同じ内容で上演されたものと考えられるわ。

犬輔：はい、有難うございます。逸る心を鎮めましょう。そのために、まず登場人物4人の役柄を確認しておきましょう。

表8 サッキーニ『偽の愛に夢中』の登場人物

配役	役柄
シルヴィオ	羊飼い、エウリッラの恋人
エウリッラ	女羊飼い
隊長ドン・ヘラクレス	エウリッラの恋人
ビオンディーナ	酒保の女主人、ドン・ヘラクレスの恋人

鳥代：登場人物の名前がモルテッラーリとは違っていて、女羊飼いがエウリッラ、その恋人の羊飼いがシルヴィオとなっています。隊長ドン・ヘラクレスは恋人のビオンディーナをさて置いてエウリッラに横恋慕しているのですね。

## 10. サッキーニの『偽の愛に夢中』への挿入箇所候補案

### 10.1 第一部第9場のエウリッラのレチタティーヴォとアリアの代替（案）

犬輔：では、先ほどのモルテッラーリ第一部 第11場ですが、サッキーニのリブレットでは第一部第9場になっています。原作は同じでも、全く別の脚色なんですね。歌詞も殆どがモルテッラーリと異なっています。表9に翻訳しましょう。

表9 サッキーニ『偽の愛に夢中』（1769 プレスブルク）第一部 第9場

PARTE PRIMA. SCENA IX. EURILLA, e SILVIO.	第1部 第9場 エウリッラ、シルヴィオ。
Eur.	エウリッラ
Tu in queste spoglie?	なぜあなたはこのような〔兵士の〕格好をしてるの？
Silv.	シルヴィオ
Sì per tua cagione.	そう、君のためだ。
Eur.	エウリッラ
Per me?	私のため？
Silv.	シルヴィオ
Per te crudele,	残酷な君のために、
Piuttosto che lasciarti	僕は君を離れるんだ。
Perdei la libertà.	それどころか自由も失った。
Eur.	エウリッラ
Povero Silvio!	可哀想なシルヴィオ！
Silv.	シルヴィオ
Crudelissima Eurilla.	残酷すぎるエウリッラ。
Eur.	エウリッラ
In che t' offesi	どうして気分を害したの、
Silvio mio Silvio bello?	シルヴィオ、いとしいシルヴィオ？
Silv.	シルヴィオ
Eh che un sciocco son Io senza cervello.	ああ、頭脳なしの俺はなんと愚かなのだろう。
Eur.	エウリッラ
Lo dissi per salvarti	私があれを言ったのは、
Dal furor di colui: tu non udisti	あなたを彼の怒りから救うためでした。あなたは
Le sue minaccie; Ah Silvio	彼の脅しを聞きませんでした。ああ、シルヴィオ、
Guardami per pietà: facciamo pace	同情して私を見てください。仲直りしましょう、
Io t'amo più di pria.	私は前よりもあなたを愛しています。
Silv.	シルヴィオ
Eh si scosti di quà vosignoria.	さあ、ここから離れてくれないかな。
Eur.	エウリッラ
Caro sono innocente.	いとしい人、私は無実です。

Silv. Non è vero. Eur. Lo giuro. Silv. Non ti credo. Eur. M'ucciderò, mi getterrò da un albero Morrò di fame. Silv. Vada, Vada dal Capitano. Eur. Mà s'è tuo questo core, e questa mano, Credimi Silvio, Silv. Un empia un'infedele Non merita pietade. Eur. Eurilla infida? Bella merce mi rendi Per tanto amor... andate Semplici fanciulette Andate a serbar fede: ecco gl'amanti Come vi trattan poi... Cor di macigno Nò non mi fuggirai: son lo la sola ( <i>piange</i> ) Padrona di quel cor... Mà oh Dio son vane Le smanie, ed i lamenti, E posso appena articolar gl'accenti. Se mi scacci o Silvio bello Sei crudele, sei tiranno E non sai, che dall'affanno Eurilluccia morirà. Ma parlar... Oh Dio... Non posso. Mi disprezza un alma ingrata; Poveretta abbandonata Da chi mai sperar pietà. <i>Eurilla in atto di partire, è fermata da Biondina.</i>	シルヴィオ それは本当ではない。 エウリッラ 私は誓います。 シルヴィオ 信じられない。 エウリッラ 自殺します、木から身を投げます、 飢えて死にます。 シルヴィオ 行け、 隊長のところへ行け。 エウリッラ でもこの心とこの手があなたのものなら、 シルヴィオ、信じて。 シルヴィオ 不敬虔な異教徒は 慈悲を受けるに値しない。 エウリッラ 裏切り者のエウリッラですって？ あなたは私にたくさん愛を込めて 美しい贈り物をくれるものですね… 行きなさい、 素朴な女の子たち、 行って忠誠を守りましょう：その後恋人たちが あなたをどのように扱うか… 堅く閉じた心でしょうか、 いいえ、あなたは私から離れられない：その心の持ち主は 私だけです（泣く）… でも、ああ、神様、 その熱狂も不平も無駄で、 私はほとんど普通に話すことすらできません。 あなたが私を追い払うなら、ああ、シルヴィオ あなたは残酷です、あなたは暴君です そして、あなたが何を心配しているのかわかりません このエウリッラは死んでしまいます。 でも話すことは…ああ、神様…私には無理です。 恩知らずの魂は私を軽蔑します。 かわいそうな見捨てられた者 誰が慈悲を望むでしょうか。 退場しようとするエウリッラをビオンディーナが呼び止める。
--	--

教授：なるほど。このどこにモーツアルトの曲が入ると思うのかね。

犬輔：「その心の持ち主は私だけです Padrona di quel cor.」までをセッコで歌ったあとです。モーツアルトはそこからレチタティーヴォ・アコンパニヤートとアリアに繋げるべく K.255 に差し替えたものと考えます。その際、翻訳は「私はお前を残していく」のままでは使えませんから、女性役らしい訳に変更する必要があります。

## 10.2 第一部第9場のシルヴィオのレチタティーヴォとアリアの代替（案）

鳥代：わたしは K.255 を歌ったのはエウリッラではなくシルヴィオだと思います。表 10 に第二部第5場を翻訳しましょう。

表 10 サッキーニ《偽の愛に夢中》(1769 プレスブルク) 第二部 第5場

PARTE SECONDA. SCENA V. <i>EURILLA, poi SILVIO, indi. II CAPITANO chè torna.</i>	第二部 第5場 エウリッラ、それからシルヴィオ。その後戻ってきたキャプテン。
Eur. Io lasciar Silvio mio? Ah prima i Monti Si vedran caminar: prima l'Agnelle Insiem co i Lupi a pascolare andranno. Silv. Mi divora l'affanno; La gelosia mi strugge. Anima mia Qual destino crudele Ci allontana così? Torniamo, o cara, Alle nostre Capanne.	エウリッラ シルヴィオを手放すべきでしょうか？ ああ、山が動くのが見えるでしょう。それは 子羊たちが狼たちと一緒に草を食べに行くところ。 シルヴィオ 心配が僕を消耗させる。 嫉妬が僕を蝕む。我が魂よ、 僕たちをこのように引き離す 残酷な運命とは何だろう？ ああ、いとしい人、 小屋に戻ろう。

Eur. Mà il modo di fuggir? (ah non tornasse Si presto il Capitan.) Silv. Sai che Biondina Hà promesso ajutarci. Eur. E'vero: (oh Dio Se mi trova con Silvio Milero lui, misera me). Silv. Non parli? Stai confusa, sospesa? Cap. (I Matrimoni Van subito conclusi... Ma che vedo! Quel maledetto pazzo Cosa fà lì colla mia bella?) Eur. Oh Dio! Silvio vanne per ora: Ci rivedremo. Silv. Come! Tu mi discacci? (Oh Cielo Mi tradisse costei Fosse d'altri invaghita.) Cap. Fuggi da questo pazzo (ad EURILLA non veduto da Silvio, sorpresa)	エウリッラ でも、逃げる方法は？（ああ、隊長がすぐに戻ってこないよう） シルヴィオ ビオンディーナが僕たちを助けると約束してくれたのは知ってるね。 エウリッラ それは本当よ。（ああ、神様、私がシルヴィオと一緒にいるのを見つけたら、彼は私を殴るでしょう、私は惨めです） シルヴィオ 黙ってるのか？ 混乱で中断してるのか？ 隊長 (結婚は直ちに契約されなければならぬ… だが、何たること！あの狂った男は私のいい人とそこで何をしているんだ？) エウリッラ ああ神様！ シルヴィオ、とりあえず行って。 また会いましょう。 シルヴィオ なんと！ 僕を追い払うのか？（ああ、もし彼女が他の人に夢中になつたら、彼女は僕を裏切るだろう） 隊長 この狂人から逃げろ。 (シルヴィオに見られないようにエウリッラに、驚いたふりをして)
Eur. (Ah son spedita) Silv. Giurami almeno ingrata Che tu non ami altri che me. Eur. Non posso. Silv. Come non puoi? Eur. (Che pena Potessi fargli un cenno Potessi dir che il Captan ci ascolta.) Silv. (Ah chi fù che m'ha tolta La cara Eurilla mia.) (smaniando) Cap. (Costui vaneggia Eurilla bada a te.) (piano come sopra)	エウリッラ (ああ、死にそう) シルヴィオ 少なくとも誓ってくれ、恩知らずな人、僕以外の誰も愛さないと。 エウリッラ できません。 シルヴィオ どうしてできないんだ？ エウリッラ (彼にうなづいて、隊長が私たちの話を聞いているからと告げるのは、私にとってどれほど辛いことでしょう) シルヴィオ (ああ、僕の大好きなエウリッラを奪つたのは誰だ) (動搖して) 隊長 (彼は暴れている。エウリッラ、気をつけて) (動搖して)
Eur. (Son disperata.) Silv. Parla. Eur. Parlar non deggio. Silv. (Ch'equivoco parlar... sogno, o vaneggio Che m'accadde? Che fu?) (con furia) Cap. (Fuggi: non vedi, Che s'infuria, tarocca, e sbatte i piedi?) (ad Eurilla.) Silv. Addio: parto per sempre Per non vedetti più.	エウリッラ (私は絶望的です) シルヴィオ 話してくれ。 エウリッラ 話すことができません。 シルヴィオ (何という誤解が… 夢が、おお、妄想が、僕に起こつた？ 何があったんだ？) (激怒して) 隊長 (逃げろ。見えないのか、彼は激怒し、偽り、足を踏み鳴らしている？) (エウリッラに) シルヴィオ さようなら。二度とあなたに会わないとために、僕は永遠に去ります。

Eur. (Ma questo è troppo) Sentimi: non partir. Cap. (Che sciocca Donna Si vuol precipitare.) SiIv. Le tue Mensogne non vò più ascoltare. Sol ti rammento ingrata, L'Amor mio, la mia fede: In queste spoglie Son ridotto per te, giunsi a impazzire A delirar... per possederti... indegna Vò ascondermi ai Viventi Alla luce del dì... richiamerai Ma tardi tuo Pastore Ahi cruda Donnà, ahi disperato Amore! Nell'età più tenerella Mi giurasti eterno affetto, E il mio core semplicetto Ti giurò costante amor. Or mi lasci in abbandono; Chi potea pensarlo mai! Semplicetto m'ingannai Nel donarti questo cor.  (parte.)	エウリッラ (でも、これはやりすぎだわ) 聞いて、そこを離れないで。 隊長 (なんという愚かな女に 陥ろうとするのだ) シルヴィオ もうお前の嘘は聞きたくない。 お前を恩知らずだとだけ覚えておく。 僕の愛、僕の忠誠よ。これらの抜け殻の中で 僕はお前のために堕落し、気が狂い錯乱して しまった… お前を所有するには… ふさわしくない。 日の光の当たる生活から 身を隠したい… お前がまたお前の羊飼いを 呼び戻そうとしてもまあ手遅れだろう ああ、残酷な女性よ、ああ、絶望的な愛よ！ 一番優しい頃 お前は永遠の愛情を僕に誓った。 そして僕の素朴な心は お前に変わらぬ愛を誓った。 今、お前は僕を見捨てて行く。 誰が予測できただろうか！ 単純な男よ、間違いだったのだ この心をお前に贈ったのは。  (退場)
---	--

犬輔：鳥代さんの案は分かりました。あくまでも男性役が歌うということから、シルヴィオの最後のレチタティーヴォとアリアを K.255 に入れ替えるのですね。

### 10.3 第一部第1場のあとにシルヴィオが単独でレチタティーヴォとアリアを歌う場を挿入(案)

教授：たまには私の案も議論に加えてもらいたい。諸君たちは物語の煮詰まった場を選んでいるが、物語が始まつすぐの第一部第1場はどうだ。この台本は話の進むのが早いので別離もすぐに到来する。では表11を見てもらいたい。

表 11 サッキーニ《偽の愛に夢中》(1769 プレスブルク) 第一部 第1場

PARTE PRIMA. SCENA I.	第一部 第1場
Campagna con diverse Tende militari, a mano destra un Padiglione per il Captano.	軍用テントがいくつかある田園地帯、右手には隊長用の大天幕。
<i>Nell' aprirsi del telone si vedranno diversi Soldati sparsi per il campo, alcuni mangiando, altri giocando, ed altri dormendo. Il Capitano D' Ercole nel suo padiglione seduto a tavola con altri ufficiali, a Biondina che lo serve; indi Eurilla, e Silvio, che vengon condotti prigionieri da un Sargente con una partita di Soldati.</i>	幕が開くと、キャンプの周りに数人の兵士が散らばっており、ある者は食事をし、ある者は遊び、ある者は眠っているのが見える。大天幕でドン・ヘラクレス隊長は士官たちとテーブルに座り、ビオンディーナが給仕する。そして、エウリッラとシルヴィオが軍曹と兵士のグループに捕虜として連れて来られる。
Bion. Come salta, come brilla Questo vino nel bicchiere, (porgendolo al Capitano.) Così il sangue mi zampilla Così il cor brillando va. Cap. Più del vino quell' occhietto Fà Fumare il mio cervello, Fà brillar quest' alma in petto, a2 Viva Marte vincitore Viva Bacco, eviva amore, Che tal gioja al cor ne a. Eur. Dove mai mi conducete Dove mai per carità. (a Soldati)	ビオンディーナ このワインは泡がよく飛び跳ねて、 グラスの中で輝いている。 (隊長にグラスを手渡す) 私の血は湧き出て、 心が輝いてきます。 隊長 その小さな目は私の脳を ワインよりも沸き立たせ、 この魂を私の胸に輝かせる。 二人で 戦いの勝利者万歳 バッカス万歳、恋愛万歳、 そんな喜びが私の心にありますように。 エウリッラ いったいどこに連れて行くの、 どこなの、後生だから。 (兵士たちに)

Silv.		シルヴィオ
Scellerati quanti siete		なんて邪悪な奴なんだ
Qualchedun la pagherà.		誰かが報復するぞ。
Cap.		隊長
Alto là, che imbroglio è questo?		それじゃ、これが誤魔化しだとでも？
Bion.		ビオンディーナ
Una Femina in arresto!	(alzandosi)	ご婦人が逮捕されている！ (立ち上がって)
a2		二人で
Qualche strana novità.		奇妙なことばかり。
Eur.		エウリッラ
Un'Onesta Pastorella		正直な羊飼いです、
Silv.		シルヴィオ
Un Pastore, ch'è innocente		潔白な羊飼いだ、
a2		二人で
Deh lasciate iniqua gente		ああ、不当な二人を
Nella loro libertà.		自由にしてください。
a4		四人で
Siate affabile, ed umano	(al capitano)	愛想がよく、人道的、
Deh movetevi a pietà.		同情心を示します。
Qui comanda il Capitano		ここでは隊長が責任者であり、
E ingiustizia non si fa.		不正は行われません。
Cap.		隊長
Qual' è il vostro delitto?		お前の犯罪は何であるか？
Siete spie de Nemici? Sei tu forse	(a Silvio)	敵のスパイであろう？ さしづめ (シルヴィオに)
Un ladro, un disertore?		泥棒か脱走兵だろうが？
Silv.		シルヴィオ
Mi basta la metà del suo favore.		その好意の半分で僕には十分だ。
Un pastorel son io...		僕は羊飼いだ…
Cap.		隊長
Taci balordo		黙れ、バカ、
Tu parli troppo.		しゃべりすぎだ。
Silv.		シルヴィオ
Appena		話し始めた
Signore, ó incominciato.		ばかりですよ。
Cap.		隊長
Fatti fatti e non ciarle ama il Soldato.		何も言わずにやれ。兵士を愛せよ。
Biondina da fumar.	(si pone a sedere)	ビオンディーナ、煙草にしよう。 (座る)
Bion.		ビオンディーナ
La servo.	(parte.)	かしこまりました。 (退場)
Eur.		エウリッラ
(OH quanto		(ああ、彼はなんて
Costui mi fa paura)		私を怖がらせるのでしょうか？
Silv.		シルヴィオ
(Io temo solo		(僕が恐れているのは
Per la mia pastorella.)		羊飼いの少女のことだけだ)
Cap.		隊長
(Coley... colei mi par vezzosa, e bella,) (guardando Eurilla)		(彼女は… 魅力的で美しいようだな) (エウリッラを見ながら)
Silv.		シルヴィオ
Dunque sappia...		だから分かって欲しい…
Cap.		隊長
Quel dunque		だから、よく残されて
Si potea risparmiar: lo stil laconico		いたものだ。質素なスタイルは
È il mio stil familiare		私の慣れ親しんだスタイルである。
Silv.		シルヴィオ
(Io non intendo		(一体全体誰が何を言っているのか
Che diavolo si dica)		分からぬ)
Bion.		ビオンディーナ
Eccole da fumar	(Biondina gli reca una pippa)	さあ、タバコです。 (ビオンディーナが パイプを持ってくる)
Eur.		エウリッラ
Sorte nemica.		最悪の運命だわ。
Bion.		ビオンディーナ
Si sa qual è il motivo		彼らの逮捕の理由が何か
Del loro arresto?		分かっているのですか？

Cap.		隊長
E'un'ora		この男は1時間もしやべつておるが、まだ自分のことを説明できておらん。
Che costui clarla, e non si spiega ancora.		
Eur.		エウリッラ
E ben, sa lo permette		それで、よろしければ
Il Signor Capitano		隊長さん
Parlerò Io...		私が話します…
Cap.		隊長
Parlate		話せ、
Bellissima ragazza.		美しい女の子よ。
Eur.		エウリッラ
Ora mi spieg		では、私が
In semplici parole		ニンフ仲間と牧人仲間が使い慣れた簡単な言葉でご説明しましょう。
Come frà Ninfe, e frà Pastor si suole.		愛する人が、羊の世話を休憩にして、お祈りをしている最中に、
Mentre l'amato pregge		殺人者と呼んでいいのか兵士と呼んでいいのか分からぬ男たちがやってきました。
Pascolando men giva		
Venner costoro, non sò ben s'io dica		
Assassini ò Soldati.		
Cap.		隊長
(Ah quanto è cara!		(ああ、なんて可愛いんだろう！)
Che bel labro vermiglio!		なんとも美しい赤い唇だ！
Che volto sovr'umano!)	(sospirando.)	なんて超人的な顔なんだ！) (ため息について)
Bion.		ビオンディーナ
(La guarda un poco troppo il Capitano).		(隊長は少し彼女を見すぎている)
Eur.		エウリッラ
Due de più bianchi agnelli		最も白い子羊の二匹が私を
Volean rapirmi a forza: alzai le grida		力強くで誘拐しようとしたのです。私は叫び声を上げて羊飼いたちを呼びました。誇り高い
I Pastori chiamai: Silvio con alteri		シルヴィオが私を助けに来てくれたのです。
Sen venne in mio soccorso.		シルヴィオ
Silv.		僕がシルヴィオです…
Io son Silvio...		隊長
Cap.		黙れ、この野郎… 続けよ (エウリッラに)
Taci bestia... seguite	(ad Eurilla.)	結局どうなった？
Alfin che cosa avvenne?		エウリッラ
Eur.		結局、これらの邪悪な人々は
Alfin quest' empi		獲物を放棄しました。でも、シルヴィオにも
Abbandonar la preda; mà adirati		私にも腹を立てました。なぜなら、
E con Silvio, e con me, perche ciascuno		私たちがそれぞれ必死に自分を守ったからです。
Fè per propria difesa i sforzi suoi		そしてあなたの前に連れて来られました。
Ci condussero quà dinanzi a voi.		隊長
Cap.		ああ、怠惰な悪党どもよ、
Ah furfanti poltroni		軍紀とは何かを (兵士たちに)
Voglio farvi provare	(ai Soldati)	体験してもらいたい。
Cos'è la disciplina militare.		ビオンディーナ
Bion.		隊長さんを
Col Signor Capitano		からかわないでくださいね。
Non si scherza.		エウリッラ
Eur.		ご配慮に
Tenuti		感謝いたします。
Siamo al vostro bel core.		シルヴィオ
Silv.		では出発しよう… (エウリッラに)
Dunque partiamo...	(ad Eurilla)	隊長
Cap.		そうはいかん。
Dunque non Signore.		このままでいろ。
Io voglio che rimanga,		エウリッラは今日
Frà noi tutt'oggi Eurilla		私たちのところに残れ。
Tu pur vi rimarrai.		ビオンディーナ
Bion.		(ああ、心が
(Ah ch'io mi sento		嫉妬に蝕まれていく気がする)
Il core divisor da gelosia.)		シルヴィオ
Silv.		僕は小屋に戻りたい、
Alla capanna mia		隊長、帰りたい… エウリッラも一緒に
Signor tornar vorrei... Vorrei ch'Eurilla		帰って欲しいのですが…
Meco tornasse...		僕が話せない決まりとは
Mà qual legge è questa		何でしょうか？ だから… (怒って)
Ch'io non possi parlar? Dunque... (adirato)		

Cap. In arresto Dunque adesso n'andrai; In una delle tende Costui venga guardato. Eur. (Povero Silvio mio) Silv. (Son disperato.) Senza noi l'amato gregge Chi all' ovile condurrà. Pecorelle poverelle Nò per voi non v' è pietà. Cara Eurilla tu qui resti Ed io parto, e vivo in pene. Perche toglierci quel bene Che si chiama libertà.	隊長 逮捕されているのだ だから今、お前は行くのだ テントの一つで こいつをチェックするのだ。 エウリッラ (かわいそうなシルヴィオ) シルヴィオ (絶望的だ) 僕らのいない最愛の群れを 誰が囲いの中に導くのか かわいそうな羊たち。 お前たちに容赦はない。 いとしいエウリッラ、君はここにいて、 僕は去り、そして苦しみながら生きる。 なぜ自由という名の よき人を奪うのか。
---	--

鳥代：この場の最後のアリアと K.255 のレチタティーヴォとアリアに入れ替えるのですね。でも喜劇的対話とは相容れない深刻さがあって、繋がりそうもありませんが。

教授：私の案はそこで入れ替えるのではない。シルヴィオが第一部第1場の次に登場するのは第一部第4場であるから、この間のどこかに新しい場を挿入し、そこでシルヴィオが単独でレチタティーヴォとアリア K.255 を歌うというのが私の案だ。

## 11. フランチェスコ・フォルティーニはどのように歌ったのか

犬輔：ところで、フランチェスコ・フォルティーニに関して疑問があります。多くの文献に「バイエルン選帝侯殿下の宮廷名手 Virtuoso di Camera di S. A. l'Elettore di Baviera」と書かれています<sup>注33</sup>。しかし一座の歌手が宮廷に所属しているとは考えられません。

鳥代：その称号が書かれているのはインスブルックのリブレットだけですけれどね<sup>注34</sup>。

教授：マントヴァ公、モーデナ公、トスカーナ大公は重要な歌手を宮廷に呼び、称号を与え、歌手たちは他の都市のオペラハウスに出演する際にもその称号を名乗った。またバイエルン選帝侯、ザクセン選帝侯、プファルツ選帝侯などのドイツ貴族も、交渉人を通じてイタリアで若いカストラートを雇い入れ、自国の宮廷で訓練させたということだ<sup>注35</sup>。称号ゆえ解雇後も使用可能だったのだろう。

犬輔：フォルティーニはブッファが主体の一座でどのような立場だったのでしょうか。

教授：それは非常にいい質問だ。

鳥代：調べられる範囲内ですが、フォルティーニはドランマ・ペル・ムジカ（5例）では当然ながら男性役、ドランマ・ジョコーザ（4例）<sup>注36</sup>でも男性役を歌っています。

犬輔：いやな予感がしてきた。ぼくはドランマ・ジョコーザではカストラートが女性役を異性装（男性が女装して演じる）で歌うものとばかり思っていました。もっとも異性装の女役はヴィンチの『アルタセルセ』（1730）でお目にかかる以来ですから、オペラ・セーリアですら時代的に古い演奏スタイルになっていたんでしょうね<sup>注37</sup>。ということはドランマ・ジョコーザでカストラートが男性役を歌うときは楽譜を基本的にオクターヴ上げで歌っていたのですね。その際、装飾を即興で付けたかどうかまでは不明だけだ。

鳥代：ということは、犬輔さんの案（表9）を適用しようとすると、それまでの上演でシルヴィオ役を歌っていたフォルティーニが、モーツアルトの代替曲を適用する上演ではエウリッラ役を歌うことになり、それに伴ってシルヴィオ役を別の歌手が担当しなければならなくなるという困難な状況に陥ることになるわね。

犬輔：お言葉ですが、鳥代さんの案（表10）は裏切った恋人を未練がましく見限る別れです。K.255 の歌詞は愛し続けている恋人との別れですからやはり適用に無理があるのでは？

教授：そこで私の案（表11）は愛する恋人との別れのダメ押しである。テキストが旧様式（オペラ・セーリア）であって、曲をどう書いても新様式（ドランマ・ジョコーザ）とぶつからてしまうゆえ、新しい場を挿入して歌うことがぶつかり合いを緩和することにもなる。見方を変えればそれを指してコンサート・アリア風に歌ったと言えるかもしれない。

鳥代：K.255 がコンサート・アリアだという従来説が再解釈で生き残れるということですか。

犬輔：ザルツブルクでのオペラ最終日には『偽の愛に夢中』が上演されました。フェアウエル上演ゆえに K.255 が挿入されたという可能性もあります。もしこの上演をシーデンホーフェンが観に行っていたら「フォルティーニはオペラの下でロンドー風のアリアを歌った Unter der Oper spielte Castrat Fortini eine Arie en Rondeau.」と日誌に書いたかも知れませんね。

## 11. 楽曲構成

鳥代：では、モーツアルトのアリアの楽曲構成を表12に纏めましょう。

表12 モーツアルト「私はお前を残していく」の構成

小節	詩行	調性	形式
24–28	Io ti lascio, e questo addio, se sia l'ultimo non so. 私はお前を残して行く、これで別れだ、これが最後になるかはわからぬ。	F	♩
29–36	Ah, chi sà, bell'idol mio, se mai più ti rivedrò, ah, chi sà, bell'idol mio, se mai più ti rivedrò. ああ、誰が知っているだろう、いとしい人、またお前に会えるのか、ああ、誰が知っている だろう、いとしい人、またお前に会えるのか。	F–g–F	Andante moderato
37–46	Vengo, oh ciel! vengo, deh lascia, oh ciel! deh lascia, oh pene! Per te sol, mio ben, pavento, per te sol, mio ben, pavento, 私は行く、天よ！私は行く、あの人は残る、天よ、あの人は残る、ああ、この辛さ！お前だけが心配だ、いとしい人よ、お前だけが心配だ、いとしい人よ、	F–C–g– C–e	
47–56	Il più barbaro tormento, il più barbaro, barbaro tormento, giusti dei, chi mai provò, chi mai provò! これ以上の野蛮な苦痛を、これ以上の野蛮な、野蛮な苦痛を、正義の神々よ、だれが味わったと いうのだ、だれが味わったというのだ！	f–c–Es– g–c–g–a	Allegro Assai
57–62	Vengo, oh ciel! deh lascia oh pene! 私は行く、天よ！あの人は残る、ああ、この辛さ！	a–d	
63–74	Il più barbaro tormento, giusti dei, chi mai provò, giusti dei, chi mai provò, chi mai provò, chi mai provò! これ以上の野蛮な苦痛を、正義の神々よ、だれが味わったというのだ、正義の神々よ、だれが 味わったというのだ、だれが味わったというのだ、だれが味わったというのだ！	a–e–d– c–e–c–C	
75–79	Io ti lascio, e questo addio se sia l'ultimo non so. 私はお前を残して行く、これで別れだ、これが最後になるかはわからぬ。	F	Andante moderato
80–87	Ah, chi sà, bell'idol mio, se mai più ti rivedrò, ah chi sà, bell'idol mio, se mai più ti rivedrò. ああ、誰が知っているだろう、いとしい人、またお前に会えるのか、ああ、誰が知っている だろう、いとしい人、またお前に会えるのか。	F–g–F	
88–97	Vengo, oh ciel! Vengo, deh lascia, oh ciel! deh lascia, oh pene! Per te sol, mio ben, pavento, per te sol, mio ben, pavento, 私は行く、天よ！私は行く、あの人は残る、天よ、あの人は残る、ああ、この辛さ！お前だけが心配だ、いとしい人よ、お前だけが心配だ、いとしい人よ、	B–F–g– a–C	
98–107	Il più barbaro tormento, il più barbaro, barbaro tormento, giusti dei, chi mai provò, chi mai provò! これ以上の野蛮な苦痛を、これ以上の野蛮な、野蛮な苦痛を、正義の神々よ、だれが味わったと いうのだ、だれが味わったというのだ！	f–As–f	Allegro Assai
108–115	Vengo, oh ciel! deh lascia, oh pene! Per te sol, mio ben, pavento, 私は行く、天よ！あの人は残る、ああ、この辛さ！お前だけが心配だ、いとしい人よ、	d–F	
116–131	Il più barbaro tormento, il più barbaro tormento, giusti dei, chi mai provò, giusti dei, chi mai provò, chi mai provò! これ以上の野蛮な苦痛を、これ以上の野蛮な苦痛を、正義の神々よ、だれが味わったという のだ、だれが味わったというのだ、正義の神々よ、だれが味わったというのだ、だれが味わったと いうのだ、だれが味わったというのだ、だれが味わったというのだ！	g–d–g–d	
132–136	Io ti lascio, e questo addio se sia l'ultimo non so. 私はお前を残して行く、これで別れだ、これが最後になるかはわからぬ。	F	Andante moderato
137–142	Ah, chi sà, bell'idol mio, se mai più ti rivedrò, ah chi sà, bell'idol mio, ああ、誰が知っているだろう、いとしい人、またお前に会えるのか、ああ、誰が知っている だろう、いとしい人、	g–F–g–F	Allegretto
143–152	Vengo, oh ciel! deh lascia, oh pene! Sol per te, mio ben, pavento, mio ben, pavento, 私は行く、天よ！あの人は残る、ああ、この辛さ！お前だけが、いとしい人よ、心配だ、い としい人よ、心配だ、	d–F	Allegro assai
153–156	Il più barbaro tormento, giusti dei, chi mai provò, これ以上の野蛮な苦痛を、正義の神々よ、だれが味わったというのだ、	F	
157–165	Io ti lascio, e questo addio se sia l'ultimo non so, se sia l'ultimo non so, 私はお前を残して行く、これで別れだ、これが最後になるかはわからぬ、これが最後になる かはわからぬ、	F	Andante moderato
166–173	Ah, chi sà, bell'idol mio, se mai più ti rivedrò, se mai più ti rivedrò, ti rivedrò. ああ、誰が知っているだろう、いとしい人、またお前に会えるのか、またお前に会えるのか、 お前に会えるのか。	F	Allegro Assai

犬輔：随分複雑な構成になっているんですね。「ロンド一風のアリア Aria en Rondeau」というのは  
この構造のことだったんですね。

鳥代：基本的には A (adt.m) – B (allo.a) – A' (adt.m) – B' (allo.a) – A'' (adt.m+allt) – B'' (allo.a)  
– A''' (Adt.m+allo.a) という構成で、調性の選択も含めかなりの労作です。

教授：曲自体に妥協はないね。オペラ・セーリア用のアリアとしても伝統を突き抜けている。モ  
ルテッラーリの構成と比べるとよく分かると思う。

犬輔：それでは、モルテッラーリのアリアの楽曲構成を表13に示します。

表13 モルテッラーリ「私はお前を残していく」の構成

小節	詩行	調性	形式
5 - 8	Io ti lascio, e questo addio se sia l'ultimo non so. 私はお前を残して行く、これで別れだ、これが最後になるかはわからぬ。	A	♩ Andante
9 - 14	Ah! chi sà, bell'idol mio se mai più ti rivedrò? se mai più ti rivedrò? ああ、誰が知っているだろう、いとしい人、またお前に会えるのか、またお前に会えるのか。		
15 - 25	Vengo vengo oh! ciel! oh! ciel! deh, lascia! deh, lascia! oh pena! oh! ciel! 私は行く、天よ！天よ！あの人は残る、あの人は残る、ああ、この辛さ！天よ！あの人は残る、ああ、この辛さ！	A-a	
26 - 33	Per te sol per te sol mio ben, pavento, per te sol mio ben, pavento, お前だけが、お前だけが、心配だ、いとしい人よ、お前だけが、心配だ、いとしい人よ、	A	Allegro
34 - 38	Vengo oh! ciel! che pena! oh! ciel! che pena! 私は行く、天よ！とても辛い！天よ！とても辛い！		
39 - 48	Il più barbaro tormento giusti Dei! chi mai provò? giusti Dei! giusti Dei! chi mai provò. これ以上の野蛮な苦痛を、正義の神々よ、だれが味わったというのだ？正義の神々よ、だれが味わったというのだ、	a-e-A (バス 46/47 小節のfは fisと解釈)	
49 - 52	Io ti lascio, e questo addio se sia l'ultimo non so. 私はお前を残して行く、これで別れだ、これが最後になるかはわからぬ。	A	Primo tempo
53 - 58	Ah! chi sà, bell'idol mio se mai più ti rivedrò? se mai più ti rivedrò? ああ、誰が知っているだろう、いとしい人、またお前に会えるのか、またお前に会えるのか？		
59	Io ti lascio, 私はお前を残して行く、		
60 - 64	Ah! chi sa se mai più ti rivedrò? se mai più ti rivedrò? ああ、誰が知っているだろう、またお前に会えるのか、またお前に会えるのか？		

鳥代：第2節の1行目をアンダンテの部分で先取りし、アレグロ部分では第2節の1行目と2行目を逆にしていますよ。これにより、第2節の1行目が繰り返して歌われることになります。このように伝統的ダ・カーポ形式はそのままで、欲しい効果を得る工夫が施されているのですね<sup>38</sup>（RondoあるいはRondeauという名称は作曲者ものではありません）。

## 11.まとめ

鳥代：レチタティーヴォとアリア「幸せの影よ／私はお前を残していく」K.255はザルツブルクに滞在中のカーポ・コミコ（喜劇座長）ピエトロ・ローザが率いるイタリア一座のアルト・カストラート歌手フランチェスコ・フォルティーニが（楽譜よりオクターヴ高く）歌うサッキニのドランマ・ジョコーザ（インテルメッツォ）《偽の愛に夢中》（1776.9-1776.10に上演）のシリヴィオ役のために、挿入曲として（アルト本来の音程で）作曲されたものだと考えられます。筆写譜を渡して自筆譜を手元に残したのは、コンサート・アリアとしての転用を想定したことだったであろうことが後の手紙から伺えます。

犬輔：歌詞はミケーレ・モルテッラーリ《アルサー・チエ》（パドヴァ 1776）の楽譜から採られていますが、楽譜がどのようにしてザルツブルクに伝わったのか不明とされています。そこでぼくはこう考えます。フォルティーニはドランマ・ジョコーザの男役のお仕着せ曲ばかりではカストラートとして“役不足”的め、“身の丈にぴったり合った”新作の代替曲が欲しいと常々思い、公言していた。そこにパドヴァ新劇場の旧知の関係者からテンドウウツチが歌ったモルテッラーリのレチタティーヴォとアリアの話が入り、楽譜を取り寄せた。しかし、その音域はcis'-fis"であり、アルトには高すぎた。そこでモーツアルトに同じ歌詞でアルト用の曲を作曲するよう依頼したものと思われます。そして音域がg-d"のK.255が作曲されたのでしょうか。

教授：モーツアルトはK.255でドランマ・ジョコーザへのオペラ・セーリア様式（すなわち単なるダ・カーポ形式、あるいは協奏曲形式のアリア）の導入を試みることをせず、まったく新しい「ロンド一風アリア Aria en Rondeau」という形で解決した。本格的な「ロンド Rondo」（アリアと言う名称が付かない）はヴィーン時代の後半、1786年以降を待たなければならぬ<sup>39</sup>。

注1: Kunstsammlungen der Veste Coburg, Signatur: V.1109,2 ☞

注2: Küster (2002). NMA II/7/1-2: Arien, Szenen, Ensembles und Chöre mit Orchester · Band 1 und 2, Kritischer Bericht ☞

注3: Schidenhofen, Joachim Ferdinand von (2006). Ein Freund der Mozarts, Die Tagebücher des Salzburg Hofrats (Herausgegeben und kommentiert von Hannelore und Rudolph Angermüller unter Mitarbeit von Günther G. Bauer), Verlag K. H. Bock, 2006

注4: 西川尚生 (2005).『作曲家◎人と作品 モーツアルト』音楽之友社

注5: Amore ingegnoso o sia La giovane scaltra. Dramma giocoso per musica da rappresentarsi nel Teatro Obizzi il carnevale dell'anno 1775. Umiliato a sua eccellenza [...] conte Gio. Benedetto Giovanelli capitano, V. podestà di Padova. - Padova: Stamperia Penada, [1775]. (Sartori 1990 01700) ☞

- 注 6 : Einstein, Alfred (1937). Mozart et l'opéra bouffe a Salzburg, in: Revue de Musicologie, T. 18, No. 61 (1937), pp. 1-4. [∞](#) およびリブレットを参照した。
- 注 7 : 前掲 Schidenhofen (2006), p.179
- 注 8 : I due viaggiatori francesi. Dramma giocoso per musica da rappresentarsi nel Imperiale Regio Teatro d'Innsbruck nell'autunno dell'anno 1776. Umiliato alle gentili nobilissime dame, ed egregi nobilissimi cavalieri. - Innsbruck: Stamperia di Corte, [1776]. (Sartori 1990 08599) [∞](#)
- 注 9 : 前掲 Schidenhofen (2006) では「オペラは平凡であった die opera Mittlmässig」(1776.8.27) と評価されている。
- 注 10 : Kunze (1968). NMA II/7/2: Arias, Scenes, Vocal Ensembles, and Choirs with Orchestra vol. 2, Score [∞](#)
- 注 11 : Padova Fiere [∞](#)
- 注 12 : Arsace. Dramma per musica da rappresentarsi nel nobilissimo nuovo Teatro di Padova la Fiera dell'anno 1775. - In Venezia: appresso Modesto Fenzo, 1775. (Sartori 1990 02882) [∞](#)
- 注 13 : レチタティーヴォのみ Lübeck, (D-LÜH) Mus. Q 263 [∞](#)、レチタティーヴォとアリア Dresden, (D-DL) Mus.1-F-49,4-6 [∞](#) (レチタティーヴォは前者の歌詞がリブレットに忠実)
- 注 14 : Einstein, Alfred (1962). Transl. Arthur Mendel, Nathan Broder. Mozart, His Character, His Work, Oxford University Press, 1962, p.361 [∞](#)
- 注 15 : Warburton, Ernest (1980). The New Grove Dictionary of Music & Musicians ed. Stanley Sadie, Vol.1, Macmillan Publishers, 1980, p.872 for T250/2 (W G20) and p.874 for T250/2 (W LG2).
- 注 16 : 歌詞は J.C.BACH MOZART: Complete Concert Arias with obbligati instruments, Hjordis Thebault (soprano), Solamente Naturali, Talpai, Brilliant Classics, 2011 の CD booklet から。
- 注 17 : Waldersee, Paul Graf von (1905). [ケッヒエル第2版] Ludwig Ritter von Köchel: Chronologisch-thematisches Verzeichniss sämmtlicher Tonwerke Wolfgang Amade Mozart's. Nebst Angabe der verloren gegangenen, angefangenen, übertragenen, zweifelhaften und unterschobenen Compositionen desselben. Breitkopf & Härtel, 2. Auflage, bearbeitet und ergänzt, Hrsg. von Paul Graf von Waldersee, Leipzig 1905. [∞](#)
- 注 18 : La Didone abbandonata. Dramma per musica da rappresentarsi nel Teatro Formagliari il carnovale dell'anno 1753. - Bologna: per il Sassi successore del Benacci, [1752]. (Sartori 1990 07803) [∞](#)
- 注 19 : Didone abbandonata. A serious opera written by Metastasio as performed at the King's Theatre in the Hay-Market. The music by the most celebrated composers under the direction of signor Sacchini. - London : T. Cadell, [1775]. (Sartori 1990 07838) [∞](#)
- 注 20 : Burden, Michael (2007). Metastasio on the London Stage, 1728 to 1840: A Catalogue, in: Royal Musical Association Research Chronicle No. 40 (2007), pp. iii, v-xi, xiii-xix, 1-332, Taylor & Francis, Ltd. [∞](#)
- 注 21 : RISM ID no.: 456015469 の Incipits から判断。 [∞](#)
- 注 22 : 前掲 Didone abbandonata リブレットによる。因みにカテリーナ・ガブリエーリがカタリーナ・カヴァリエーリ (ジルバーグラング嬢、ドンナ・エルヴィーラ役) と、妹のフランチェスカ・ガブリエーリがアドリアーナ・フェッラーレゼ・デル・ベーネ (再演のスザンナ役、フィオルディリージ役) と同一視されるのは間違い。彼女らがモーツアルトの曲を歌った記録はないようだ。神戸モーツアルト研究会第291回例会 2022.9.4 を参照 [∞](#)
- 注 23 : RISM ID no.: 850004969 の Incipits から判断。 [∞](#)
- 注 24 : Didone abbandonata. Dramma per musica da rappresentarsi nel real Teatro di S. Carlo nel dì 12 gennaro 1776 per festeggiarsi la nascita di s.m. il re Ferdinando IV nostro amabilissimo sovrano, ed alla medesima M.S. dedicato. - Napoli: Francesco Morelli, 1776. (Sartori 1990 07842) [∞](#)
- 注 25 : Nel Teatro di S. Carlo 1776 / La Didone abbandonata / Recit.vo e Rondo / Io vi lascio, e quest'addio / Del Sig.re D.n Giuseppe Schuster / Sassone [MANOSCRITTO] [∞](#)
- 注 26 : Michele Mortellari: Rondeau [∞](#)
- 注 27 : Variazione [on "Io vi lascio e questo addio" from "Didone" by Michele Mortellari] Composed By – Luigi Palmerini [∞](#)
- 注 28 : 前掲 Kunze (1968). NMA II/7/2
- 注 29 : Biblioteca Nazionale Braidense, Ufficio Ricerca Fondi Musicali, National catalogue of music manuscripts to 1900 [∞](#)
- 注 30 : Il finto pazzo per amore, opera buffa a sette voci da rappresentarsi nel Teatro dell'eccellenzissima Casa Grimaldi a S. Gio: Grisostomo il carnevale dell'anno 1779. (Sartori 1990 10661) [∞](#)
- 注 31 : Il finto pazzo per amore. Intermezzo per musica a quattro voci. - Presburgo: Gio. Michele Landerer, 1769. (Sartori 1990 10653) [∞](#)
- 注 32 : Il finto pazzo per amore. Dramma giocoso da rappresentarsi nel Teatro di Ratisbona per ordine di sua altezza serenissima il principe regnante della Torre e Tassis, principal-commissario della dieta Imperiale etc. etc. etc. Le fou deguise' par amour [...]. - [Ratisbona: 2. metà 18. sec.]. (Sartori 1990 10649) [∞](#)
- 注 33 : 前掲ケッヒエル第2版で言及なし。前掲 Einstein, Alfred (1937) にあり。また Einstein, Alfred (1947). [ケッヒエル第3版] Ludwig Ritter von Köchel: Chronologisch-thematisches Verzeichniss sämmtlicher Tonwerke Wolfgang Amade Mozart's. Nebst Angabe der verloren gegangenen, angefangenen, übertragenen, zweifelhaften und unterschobenen Compositionen desselben. Breitkopf & Härtel, 3. Auflage, Ann Arbor 1947, Hrsg. von Alfred Einstein, XLIX, 1052 S にあり。
- 注 34 : 前掲 I due viaggiatori francesi
- 注 35 : wikipedia: Kastrat [∞](#)
- 注 36 : 本稿表2の演目。
- 注 37 : 神戸モーツアルト研究会第280回例会 2021.10.3 を参照。 [∞](#)
- 注 38 : モーツアルトは K.74b で第2節を歌う前に第1節の2行を歌って詩行のアンバランスを解消する工夫をしていた。神戸モーツアルト研究会 第292回例会 2022.10.2 を参照 [∞](#)
- 注 39 : 松田聰『モーツアルトのオペラ 全21作品の解説』音楽之友社、2021、260頁

(作成: 2023年10月22日、改訂: 2023年11月10日)

付録: アリア「私はお前（あなたたち）を残して行く」の系統樹

